

2021年8月18日(水) ハコラク9月号 掲載

医療の現場から『進む！レントゲン写真のデジタル化』

戸田 大貴 診療放射線技師

進む！レントゲン写真のデジタル化

レントゲン写真といえば、医師がレントゲンフィルムを光にかざしている場面をイメージする方も少なくないと思いますが、最近では少しずつ変わってきているのをご存じでしょうか。もちろんそのイメージの通りレントゲンフィルムで診断を行うこともありますが、デジタル機器の技術の進歩により、医療用の高精度モニターに映し出された画像をもとに診断することが主流になってきているのです。身近な例でいうとデジタルカメラの普及で写真を現像することが減り、データとして簡単に確認できるようになったのを考えていただくと想像しやすいかと思いますが。

どのように画像が作られているのか最新の機器を例に説明し



函館中央病院

診療放射線技術科
診療放射線技師

戸田 大貴さん

データとして画像が作られます。FPDを用いることでさまざまな利点があり、その中でも患者様にも関わってくる主な利点も3つご紹介します。1つ目は少ないX線量で高画質な画像を実現できるため、従来と比較して50%以下の被ばく線量で撮影することが可能になりました。2つ目は画像がその場で瞬時に表示されるため画像の確認に時間がかからず、結果として待ち時間の短縮・撮影効率のアップにつながります。3つ目はそのまま画像をデータとして医師の元に送信することですぐ^{おの}に各々の診察室のモニターにて画像の確認ができ、フィルムを運ぶ手間が無くなりました。近年、フィルム写真が少なくなっている背景にはこのような理由があったのです。

デジタルシステムの普及により、患者様にはより安心かつスムーズで快適な医療を提供できるようにになりました。今後、さらなる医療の進歩とともに、より良い環境づくりができるように我々も日々精進していきたいと思っております。

ます。デジタルシステムではFPD(Flat Panel Detector…フラットパネルディテクター)と呼ばれる厚さ2cmほどのパネルを使用し撮影します。人体を透過したX線をFPDが感知し、内部で瞬時に電気信号へと変換することで

データとして画像が作られます。FPDを用いることでさまざまな利点があり、その中でも患者様にも関わってくる主な利点も3つご紹介します。1つ目は少ないX線量で高画質な画像を実現できるため、従来と比較して50%以下の被ばく線量で撮影す



函館中央病院

函館市本町33-2

☎0138-52-1231(代)

<http://www.chubyu.com/>

■診療科目/
内科、消化器内科、腫瘍内科
循環器内科、小児科、外科
整形外科、形成外科
心臓血管外科、皮膚科
産婦人科、耳鼻咽喉科
歯科口腔外科など全26科目

■受付時間/
8:30~11:30、13:30~16:00
※土曜は午前のみ。診療科や
時間帯によっては要予約。

■休診日/日曜・祝日・年末年始



MAP